

観光地を案内でき安心した。
(瀧上)



「英語をほめてもらい、楽しく交流できた。ピンバッジをもらい、写真も撮った。」(三影)

大型客船ウェステルダム
英語で案内、笑顔でスムーズに

10月23日、大型客船の小樽港寄港に際し、16名の生徒が英語で観光案内のボランティアをした。乗客約1900人の過半数が北米、さらにオーストラリア、イギリスの乗客だった。

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年10月27日
第37号

書道部 村上仁翠さん全道で優秀賞

書道部が市内と全道大会で結果を出した。

小樽市文化祭 書道市展では、村上仁翠さん、多々見希歩さんが奨励賞を、原翠優さんが佳作を受賞、第59回全道高等学校書道展・研究大会では村上仁翠さんが優秀賞を受賞した。



全道大会の歴史のバトンを未来へ繋ぐ

新聞全道大会を振り返る

全道大会は北海道各地の方々と交流する事が出来、また、各校の新聞を拝見し、どの様なテーマで特集を組んでいるのか、各校の活動を知ることが出来、非常に勉強になりました。

全道大会初日に網走市役所水产漁港課長の渡部貴聰氏から海と川と山の関係や網走と日本の水産業について講演を頂き、我が国の水産業の現状や山と海の繋がりについて改めて知る事が出来、大変勉強になりました。

第IV分科会に於いては「支部活動を活発にするために」といいうテーマで各支部の代表が提言を行い、それを基に議論を展開しました。私も後志支部を務めさせて頂き、現在の後志支部に於ける課題や全道の各支部、各校の課題を共有し、議論を務めさせて頂きました。そこで様々な意見が出され、今後の支部活動や全道大会にも活かすことのできる分科会になつたと考えております。また分科会のご講演は元北海道高等学校文化連盟新聞部専門委員長を御勤めになり小樽桜陽高校新聞部顧問である菅原H.Q.の占領政策や学園闘争などG講びG講演を賜り、全道大会は戦後の変遷を経て今現在の形になつてゐるという事を知りました。私が参加した分科会は、全国新聞部の活動をより良い物にしようと非常によつて今があると考えました。(落合優翔)